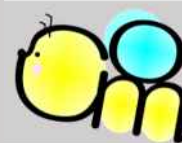


質問紙調査の結果



全国学力・学習状況調査では、教科に関する調査と共に、生活習慣や学習環境に関する質問紙調査も行っています。

質問紙調査には、【児童生徒質問紙】による調査と【学校質問紙】による調査があります。

【児童生徒質問紙】児童生徒を対象にした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などに関する調査

【学 校 質 問 紙】学校を対象にした、指導方法に関する取組や人的・物的教育条件の整備の状況などに関する調査

質問紙調査の結果分析を踏まえ、学校、保護者、地域（市民）が連携して、学力向上をはじめ、生きる力の育成に向けた取組を進めることが大切です。

授業づくりの考え方

～ 思考力・判断力・表現力を育むために～

P22

生活習慣づくり

～ 規則正しい生活をしましょう～

P27

学習習慣づくり

～ 家庭学習を計画的にしましょう～

P29

子ども理解

～ 豊かなこころを育てましょう～

P31

地域・社会とのつながり

～ つながりを大切にしましょう～

P33

教育課程の取組

～ 組織でめざす学力向上～

P35



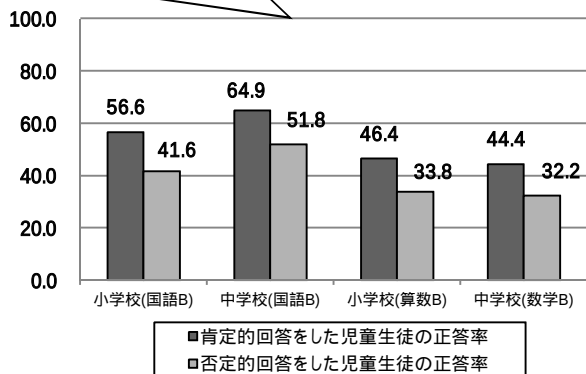
- 正答率との相関関係 -



次の項目に肯定的に回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向にあります。

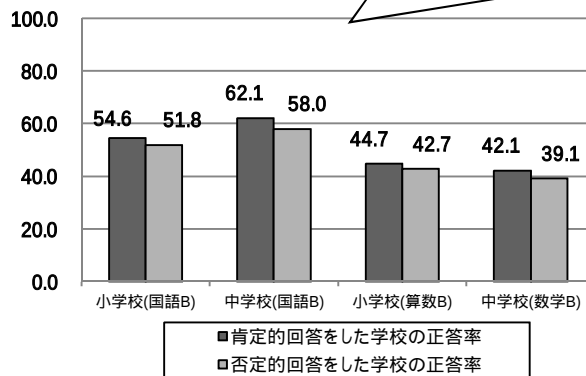


自分の考えを発表する機会がありますか



次の項目に肯定的に回答している学校の方が、正答率が高い傾向にあります。

様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか



- 全国との比較 -

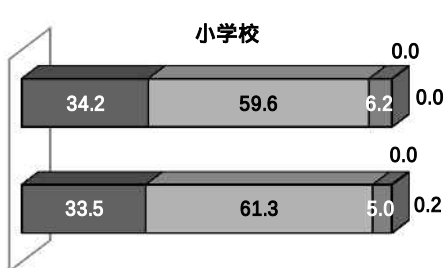
「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小中学校ともに9割を超えています。一方で、「自分の考えを発表する機会がある」に否定的に回答している児童生徒が2割程度存在しています。全ての児童生徒が自分の考えを形成したり、思考を深めたりできるような発問や指導が求められます。

様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか



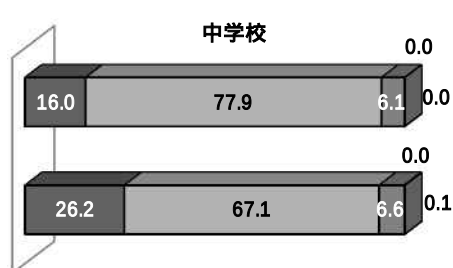
大阪市

全国



大阪市

全国



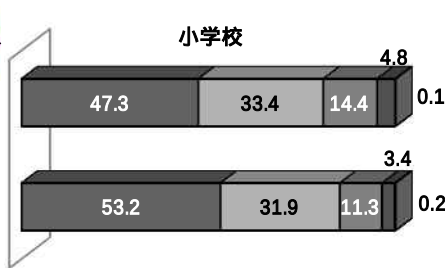
■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない ■他、無回答

自分の考えを発表する機会がありますか



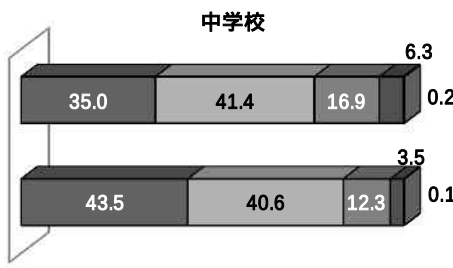
大阪市

全国



大阪市

全国



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない ■他、無回答

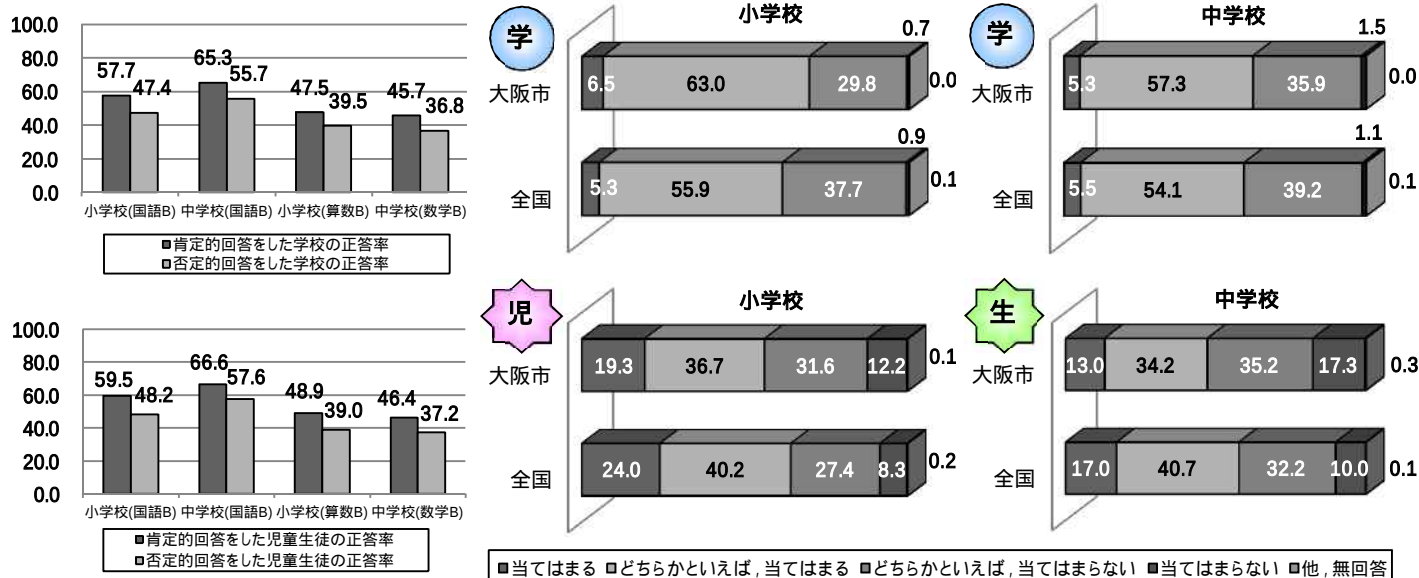
- 全国との比較・正答率との相関関係 -

「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」(新規項目)や「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」について、肯定的な回答をした学校や児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向にあります。

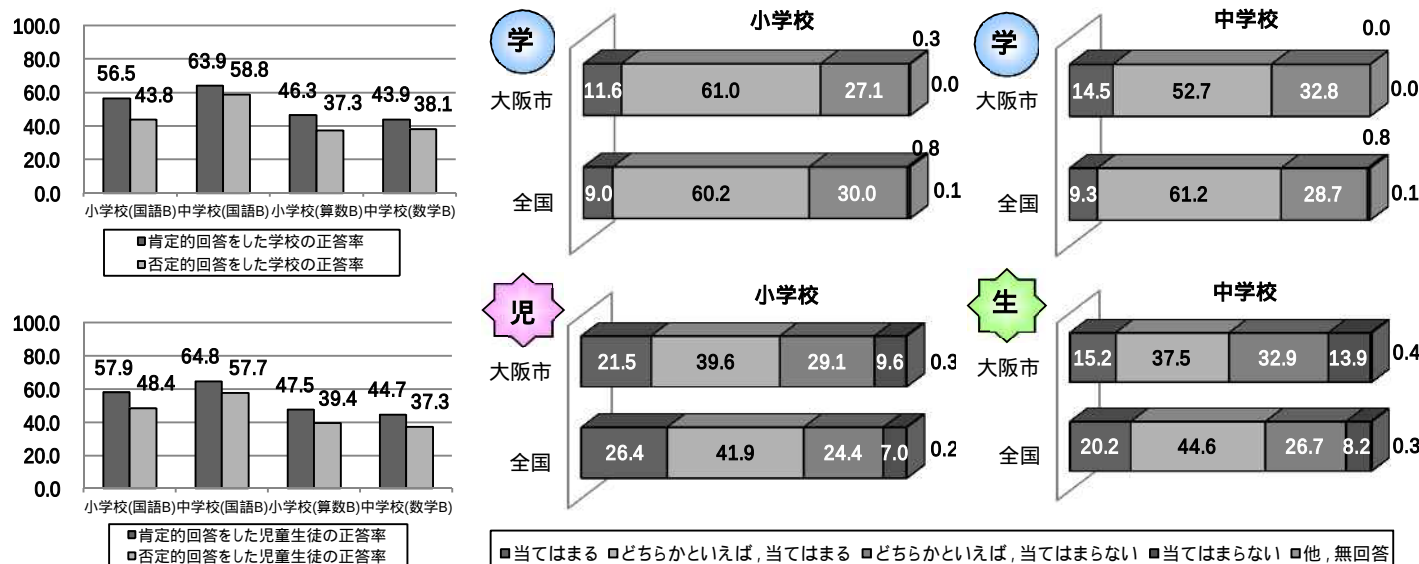
この2つの項目について、それぞれ、学校の回答と対になる児童生徒の回答とを比較してみると、大阪市では、肯定的な回答をしている学校の割合より、肯定的な回答をしている児童生徒の割合が10ポイント以上低い状況です。

全ての児童生徒が自らの考えを広め深める対話的な学びを行っていると感じられる指導が求められます。

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している<新規項目>



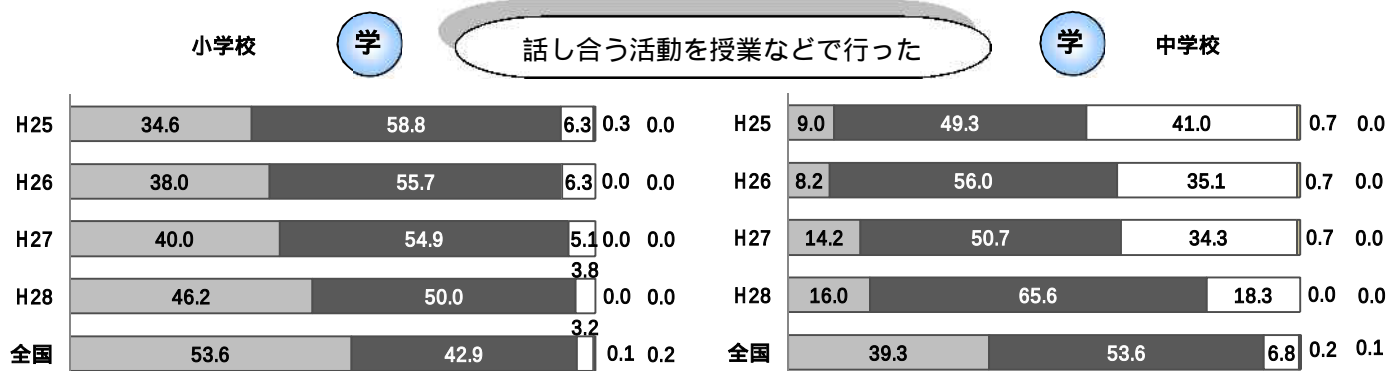
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている



- 経年の比較 -

「学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか」について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校では26年度から増加傾向にあり、中学校では27年度と比べ大きく増加しています。

□よく行った
■どちらかといえば、行った
□あまり行っていない
■全く行っていない
■他、無回答



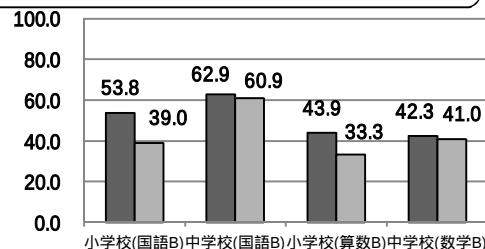
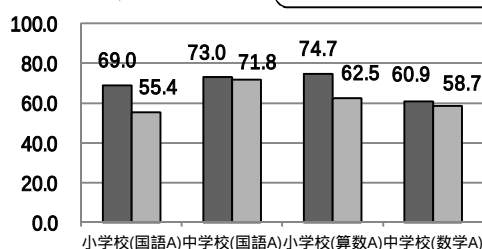
めあてを振り返る学bee

- 正答率との相関関係 -

児 生

次の項目に肯定的に回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向にあります。

ノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書きましたか



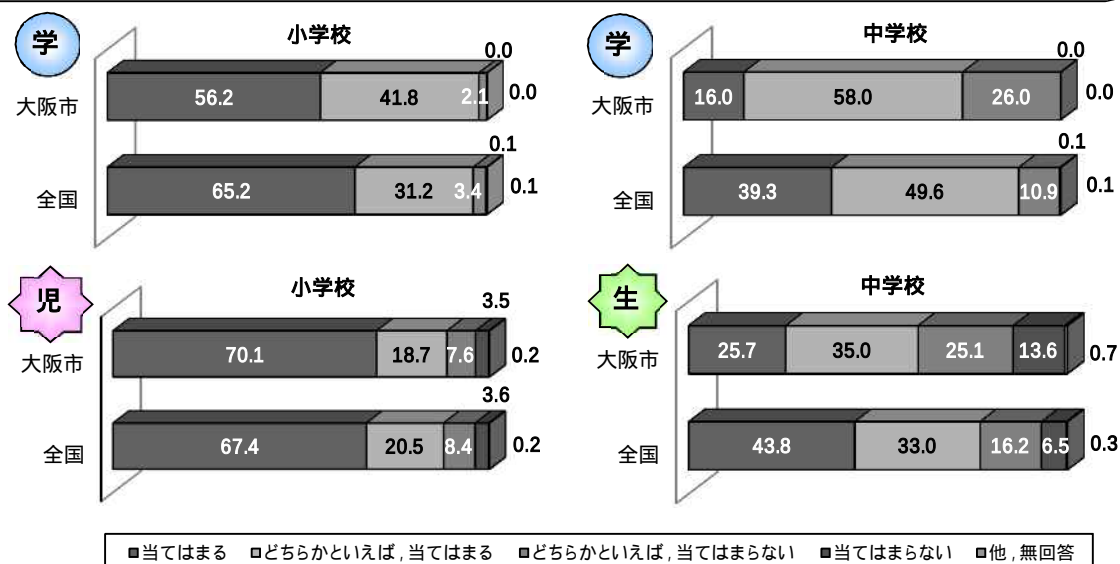
- 全国との比較 -

「ノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導した」について、肯定的に回答をした学校の割合は中学校よりも小学校で高く、小学校では全国を上回っています。

対になる児童生徒への質問で肯定的に回答した児童生徒の割合も、中学校より小学校で高く、小学校では全国を上回っていることから、小学校ではめあてとまとめを書く取組が児童に浸透していると言えます。

逆に中学校では、全国と比較しても低い状況にあり、小学校と中学校の一貫した指導が求められます。

ノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書きましたか

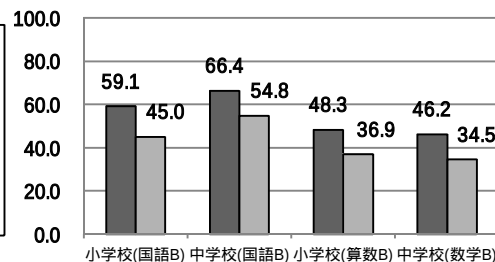
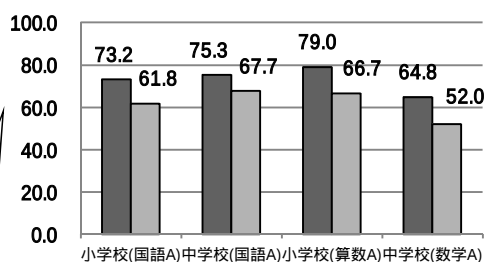


- 正答率との相関関係 -



次の項目に肯定的に回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向にあります。

先生から示される課題や、学級グループの中で自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う
＜新規項目＞

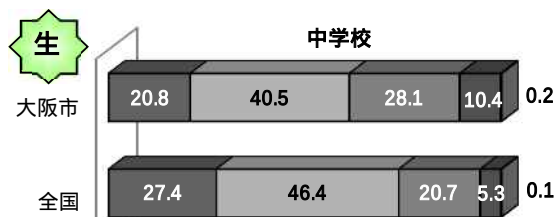
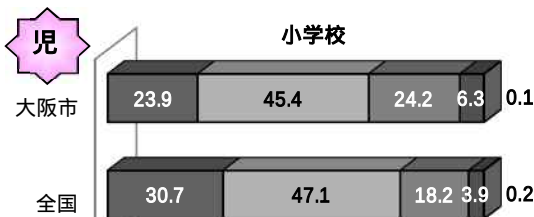
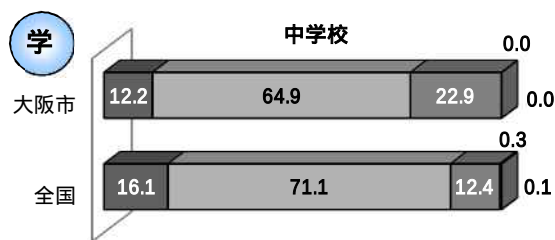
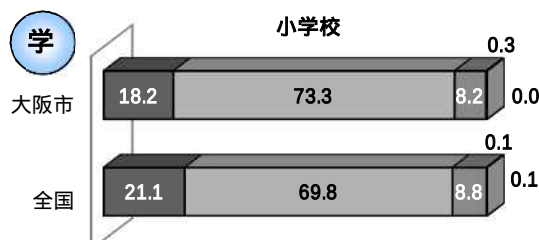


- 全国との比較 -

「先生から示される課題や、学級グループの中で自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う」(新規項目)について、肯定的な回答をした学校の割合は、小学校では9割以上、中学校では8割弱で、小学校では全国を上回っています。

一方で、対になる児童生徒への質問では、否定的な回答をしている児童生徒が3割以上存在しています。全ての児童生徒がめあてをもって主体的に取り組んでいると感じられる授業が求められます。

先生から示される課題や学級グループの中で自分たちで立てた課題に対し、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う
＜新規項目＞



■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない □他、無回答

家庭で

- ・ 1日の出来事を振り返り、2文ぐらいの簡単な文章にして、手紙や日記をつけましょう。自分の気持ちや考えを表現するための語彙を増やし、表現力を育てましょう。
- ・ 子どもが興味関心をもっている話題に対して、「どうしてそう思うの」や「もう少し詳しく教えて」など、質問や投げかけをすることで話の内容を広げたり、深めたりするような声かけをしましょう。子どもが考えをまとめ、深く考えるきっかけになります。
- ・ 子どもとの会話の中で、子どもが少し考えながら「わからん」や「びみょう」などの言葉を使う時があります。その時には、何が分からないのか、何をどう思っているのかを少し踏み込んで聞いてみましょう。自分の考えを人に伝えるため、適切な言葉を考えたり、選んだりするきっかけになります。

大阪市の授業のスタンダード「3つの学bee」

大阪市教育委員会は、「大阪市の考える良い授業」＝「大阪市の授業のスタンダード」＝「3つの学bee」を提示しています。日々の授業に、「3つの学bee」を取り入れ、一人一人の子どもを大切にしたい授業実践で、子どもたちの思考力・判断力・表現力を育てます！



考える、表現する学bee

- ・子どもが、自分の考えを書く、話すなどの方法で表現する授業を行います。
- ・様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や支援を行います。



話し合う学bee

- ・ペアやグループなどの学習形態を工夫して、話し合いを通して自分の考えを広げ深める機会を増やします。
- ・活発な発言ができるように、授業では話し合いの観点を明確に示します。



めあてを振り返る学bee

- ・授業のはじめには、「～を考えよう」「～ができるようになる」など、その時間の子どもの「めあて」を黒板やノートに示します。
- ・子どもが興味関心をもち、見通しをもって主体的に学習に取り組むよう、問題解決的な学習を行います。
- ・授業の終わりには、分かったことやできるようになったことをできる限り子どもの意見を反映した言葉を使ってまとめ、振り返り、次の学習につなげます。

効果があった取組例

- ・表現力を高めるためにタブレット端末を導入し、グループ学習などいろいろな場面で活用を図っています。
- ・各学級に10枚のミニホワイトボードを配置し、グループや学級全体で自分の考えを伝える活動を充実させています。
- ・朝会の校長先生の話の内容を題材に話し合うなど、計画的に話し合う機会を設定しています。
- ・教え込みではなく、子どもが主体的に取り組む問題解決学習を学校として進めています。
- ・めあてをもつ学習を心がけ、必ず、めあてに戻って達成できたかを振り返るようにしています。

大阪市の取組

「主体的・協働的な学びの推進」(P.38)
「ICTを活用した教育の推進」(P.40)